

18 卓球

I 競技の特性

既存のスポーツの中でも、比較的移動を必要としない競技である。アレンジした卓球は、施設・用具ともに既存の卓球と同じものを使用することから、卓球の導入としての役割も果たす。なお、卓球のテーブルには、高さを変えることのできるものもあり、低学年などには適している。

今回紹介する卓球は、授業の中で導入として取り入れたものである。車椅子での卓球の場合には、サイドラインを横切るボールへの対応が難しく、なかなかラリーが続かなくて興味が薄れてしまう。そのあたりのルールについてアレンジを加えてみた。



II 施設・用具

施設・用具とも通常の卓球の用具を使用する。

III 競技の方法

- 1.人数（チームの編成等）
通常のシングルス、ダブルスで行う。
- 2.競技の進め方、主なルール
 - (1)スマッシュは禁止とする。
 - (2)有効打はワンバウンドでエンドラインを横切るボールのみとし、サイドラインを横切ったボールは有効打としない(相手に得点が入る)。ただしサイドラインを横切ったボールでもプレイヤーが打ち返した場合には、試合は継続される(図1)。→サイドラインを横切るボールは、車椅子使用者にはとれないため。
 - (3)試合の終盤などで、故意に早い時点でラリーをミスして相手への得点を少なくするなどのスポーツマンシップに反する行為には、注意を与える。
- 3.得点
得点は、ラリーが続いた回数(サーブを1とカウントする)がそのまま得点として加算される。例えば、13回ラリーが続き、A選手が打ち返したボールがアウトとなった場合には、対戦相手のB選手に13点が加算される。
- 4.勝敗の決定
勝敗の決定は、3ゲームマッチとし、2ゲーム先取した方が勝ちとなる。また1ゲームは時間制とし、5分間で多く点数を獲得した方が勝ちとなる。

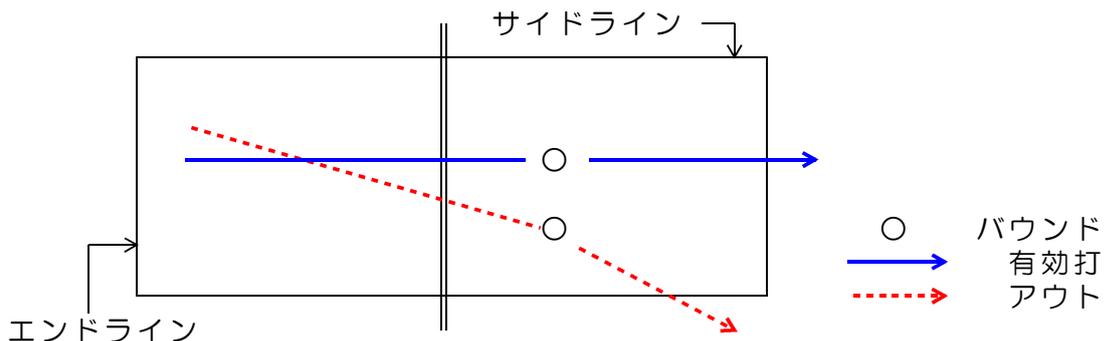


図1 有効打とアウトボール